第３４号　令和５年１２月２０日

校長室より

# 「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長　鵜飼敦之

## ２学期終業式

２学期の終業式。いつものように話の一部を掲載します。

今日は「二松生らしさ」ということについて、話をします。

この秋、3 年生の中には、受験に際し、先生方との面接練習や実際の試験を通して、表現すること、伝えることの難しさを経験したのではないかと思います。例えば「二松学舎はどのような学校ですか？」という質問。１・２年生も一緒に考えてみてください。「都心にありながら、春は千鳥ヶ淵の桜、夏は北の丸公園の青葉、秋は靖国神社の紅葉など自然豊かなロケーションに恵まれた学校です」と。この答えは、客観的な事実ですから間違ってはいません。しかし、これだけで終わりだとしたら残念です。なぜなら、この中には生徒自身や先生を含めた校内での活動が語られていないからです。中身こそが問題なのです。素晴らしい環境をどのように生かしているのかを自分との関わりで説明することが必要なことなのです。

では、一例を挙げてみましょう。「校内では生徒同士はもちろん、生徒と先生が誰彼の区別なく挨拶を交わしコミュニケーションを図ろうとする声が聞こえてくる学校です。私はそのようなアットホームさを感じさせる中で挨拶をするよう心掛けています」。「生徒は二松学舎の生徒であることに誇りをもって学校行事や部活動にも積極的に参加しており、更に活気に満ちた学校になるよう取り組んでいます」。

これであれば、自身も含めた学校生活の様子が見えてきますよね。

前置きがながくなりました。さて、ではこのようなことを皆さん一人一人が振り返ってみて、実践されていると言えるか否か自問してみてください。胸を張って実行できていると言えますか。

朝、登校時には私や生活指導部の先生方が皆さんに「おはようございます」と声をかけています。期末試験中は、例の“おはようカウンター”の数値は「650」を示し、実に全校生徒の９割の皆さんと玄関で顔を合わせました。その際、しっかりと挨拶を交わせたでしょうか。冬場は寒さのためか口も重たくなりがちですが、気持ちよく挨拶を交わしたいものです。

また、靖国通りから内堀通りに入り、玄関が近くなると男子生徒の中には学生服のボタンやツメ襟のホックを絞め忘れていないか確認する動作が一部にみられます。この行為はまさに「襟を糺す」行為で、大切なことだと思いますし、そのこと自体を責めているのではありません。これは女子生徒のソックスも同じです。でも、これらは本来、自宅を出る時から整えるべきではないかということです。服装チェックがあるから、指導されるからでは無く、二松生としてきちんとした服装でいることが大切です。よその人から見られたときにこそ服装を整えておきたいですし、二松生はしっかりとした身なりでいると評価して欲しいと思います。そして皆さんにも日頃から二松学舎の生徒としての誇りをもって生活し、「二松生らしさ」を大切にして欲しいと思っています。

挨拶は人としての礼儀を示し、そして服装・身だしなみは学習に取り組む上での前提です。「凡事徹底」当たり前のことを当たり前に実践しましょう。そして、学校生活について皆さん自身の活動や行動を誇りとして感じ、語れるようになってください。そうすれば、今以上にこの二松学舎に活力がみなぎってきます。ぜひ、そうあってほしいと願っています。

全員が元気に１月の始業式に登校し、笑顔で挨拶を交わせることを願っています。街はすでに新年の準備に入っています。

それでは、楽しいクリスマスを過ごし、新しい年を迎えましょう。